

# 韓国における感情的分極化と投票参加

2022年度 日本政治学会総会・研究大会 「政治的分極化の比較分析」

磯崎典世<sup>1</sup>・宋財沄<sup>2</sup>

<sup>1</sup>学習院大学 <sup>2</sup>関西大学

2022年 10月 1日@龍谷大学

# 問題設定

# 背景

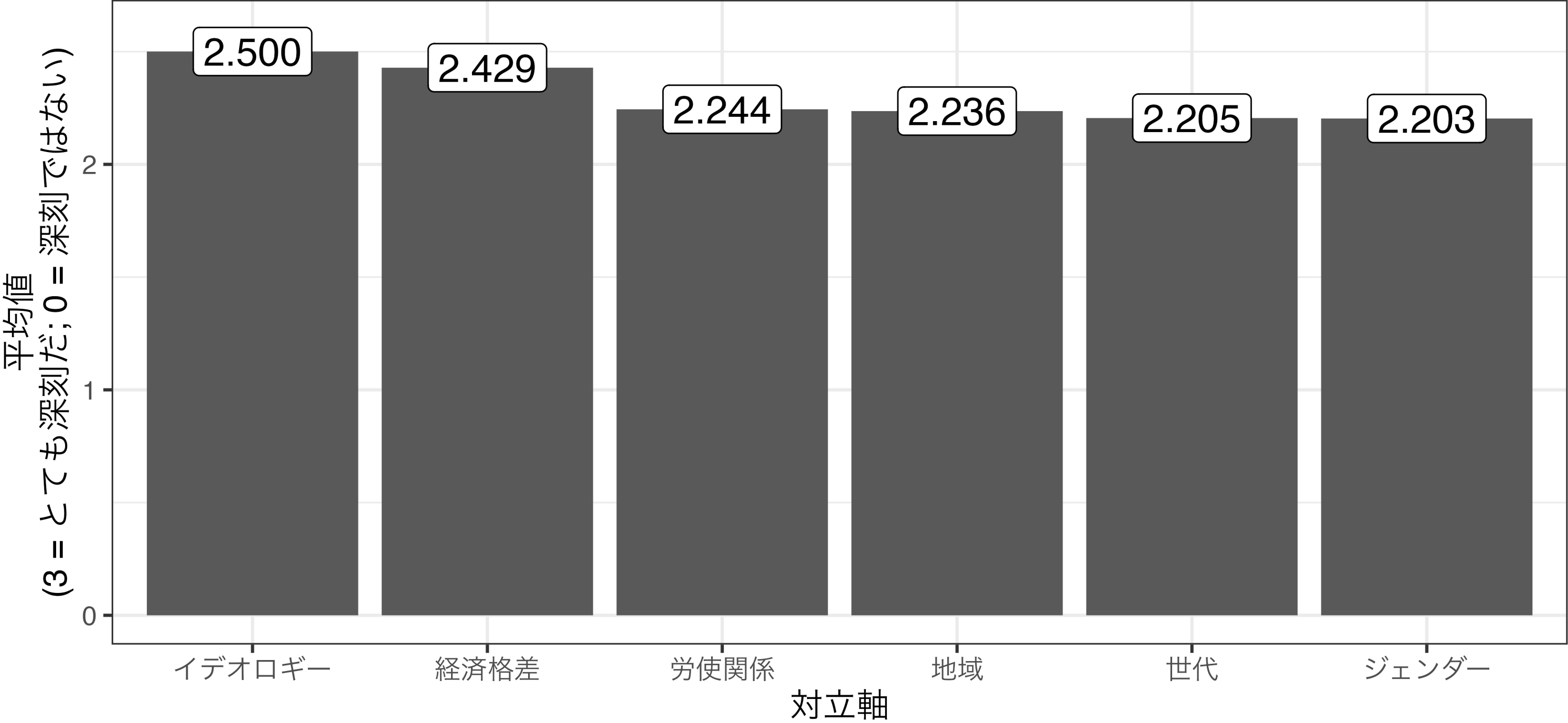
- **政治的分極化による民主主義の機能不全**（Hacker and Pierson 2005）
- 政治的分極化を拡大させる要因として**感情的分極化**（Iyengar et al. 2019; Orhan 2021など）
  - 個人が愛着を持つ政治集団（内集団）と、それに反対する政治集団（外集団）
  - 内集団を肯定し、外集団には敵意を向ける。
- 以上の議論は主に政党組織/システムが安定した欧米が対象
  - **民主主義の歴史が比較的浅い新興民主主義国家において、社会の対立が政治領域の分極化に繋がるのか。選挙過程での分極化の進展に着目**
    - 新興民主主義国家でありながら、比較的安定した選挙が行われている韓国を対象とした分析

# 韓国における感情的分極化

- 地域対立からイデオロギー、世代、ジェンダー、社会階層間対立へ（地域対立も残存）
- ローソク革命（朴槿恵弾劾）による保革勢力の大衆動員から対立の激化（鄭ドンジュン 2018）
  - 感情的分極化 党派性、イデオロギー、争点選好の強度（金ギドン・李ジェムク 2021）
  - 感情的分極化が非政治的領域（結婚など）へ与える影響（張スンジン・張ハニル 2020）
  - 政治的領域（民主主義そのもの）への効果は？
- 政治勢力（政党/有力政治家）に対する感情的分極化とその支持者に対する感情的分極化
  - 非エリートへの感情的分極化が、選挙過程にいかに増幅して、どんな効果をもたらすのか？  
⇒

# 韓国における対立軸

- 回答者が認識する韓国の対立（第2波調査）



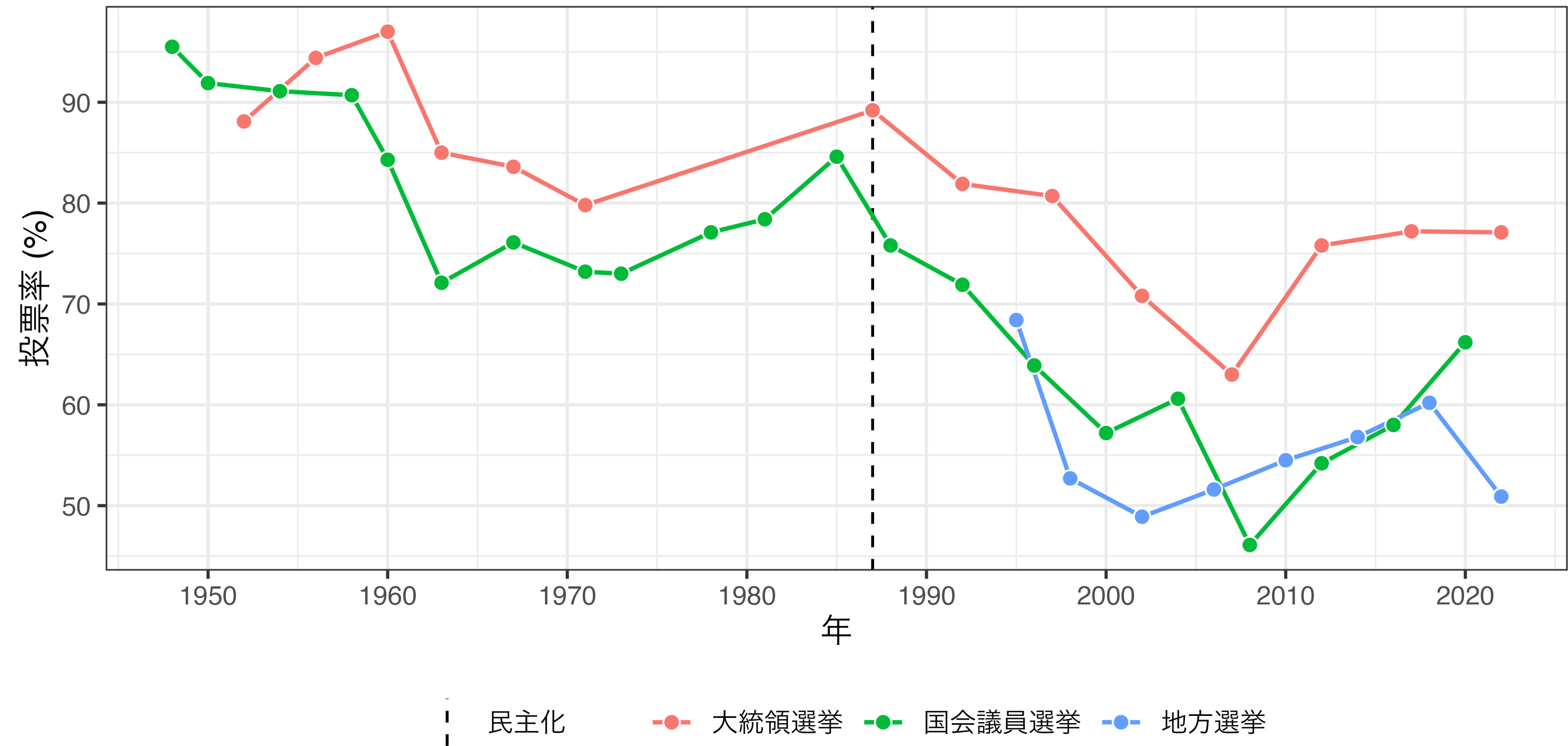
# 仮説

- 内集団の候補者が当選することによって高い効用を獲得し、外集団の候補者が当選することによって低い効用を獲得
- 感情的分極化の程度が大きい有権者の場合
  - 効用の差（expected party differential）が拡大 選挙を「高い賞金を巡る競争（high stakes competition）」と認識（Ward and Tavits 2019）⇒
  - 合理的有権者の投票参加モデル（Riker and Ordeshook 1968）における項に相当
    - は投票参加と正の関係
- **仮説:** 感情的分極化の程度が大きい有権者ほど、投票に参加する傾向がある。

# なぜ韓国か

- **一次的選挙**（first-order election）：政権選択に関わる選挙（Reif and Schmitt 1980）
  - 韓国の大統領選挙; 注目度が高く、そもそも投票率が高い
- **二次的選挙**（second-order election）：一次的選挙以外の選挙
  - 韓国の国会議員選挙、地方選挙
  - 中でも地方選挙は**注目度が低く**、比較的、真空状態に近い状況（三次的選挙?）
  - 地方選挙における高い政党の組織化率（拘束名簿式比例代表の存在; 地方選挙と国政のリンクの強さなど）

# 韓国の投票率の推移





# 分析方法

# データ

- Dynata社にパネル登録した18歳以上の韓国人
  - 割付は行われず、国勢調査に基づき、分析の際、事後補正（性別・世代・地域）
- 調査期間
  - 第1波：2022年5月25日～31日
  - 第2波：2022年6月2日～6日
- サンプルサイズ
  - 第1波：2,009名
  - 第2波：1,002名（全員、第1波回答済み）
- 調査方式：インターネット（Qualtrics）

# 感情的分極化の測定

- 感情温度を使用した感情的分極化の操作化
  - 感情温度は**主要3政党、主要3候補者、主要3政党の支持者、主要3候補者の支持者**に対する感情温度に対して測定し、4種類の感情的分極化指標が得られる。
  - スライドでは、説明変数として「**主要3政党に対する感情的分極化**」を使用
    - 主要3候補者（政党）：李在明（共に民主党; 中道革新）、尹錫悦（国民の力; 中道保守）、沈相奵（正義党; 革新）
- 感情的分極化の操作化: Wagner (2021)

$$AP_i = \sqrt{\sum_{j=1, j \neq q_i}^3 v_j (x_{ij} - \frac{AP_i}{AP_i})^2}$$

: 回答者 / : 政党（の支持者）、候補者（の支持者）  
 : 感情的分極化の度合い（）  
 $AP_i$  : 2022年大統領選挙における主要3候補者の得票率  
 $v_j$  :  $j$ に対する感情温度  
 $x_{ij}$  :  $i$ が最も好む  
 $q_i$  :  $j$

# モデル (1)

- 応答変数1：投票参加の意向（第1波で測定;）

$$\text{Intention}_i \in \{1, 2, 3\}$$

- 線形回帰分析

$$\widehat{\text{Intention}}_i = \beta_0 + \beta_1 \text{AP}_i + \sum_{j=1}^J \gamma_j X_{ij}.$$

- 応答変数2：投票参加（第2波で測定;）

$$\text{Turnout}_i \in \{0, 1\}$$

- ロジスティック回帰分析

$$\Pr(\widehat{\text{Turnout}}_i = 1) = \text{logit}^{-1}(\beta_0 + \beta_1 \text{AP}_i + \sum_{j=1}^J \gamma_j X_{ij}).$$

# モデル (2)

- **説明変数**：感情的分極化
  - 政党、政党の支持者、候補者、候補者の支持者に対する感情温度の基づいて操作化された計4種類（メインの結果は政党に対する感情的分極化）
  - 計8モデル（2つの応答変数 4つの説明変数）
- **その他共変量**：性別、年齢、~~最終~~最終学歴、世帯収入、出身地域、居住地域、政治関心、内的政治的有効性感覚、外的政治的有効性感覚、保革自己認識
- 2015年国勢調査の性別・世代・地域に基づき、重み付け
  - 党派性、投票有無、重みなしでも（ほぼ）同じ結果
  - 推定結果の詳細は[online appendix](#)を参照

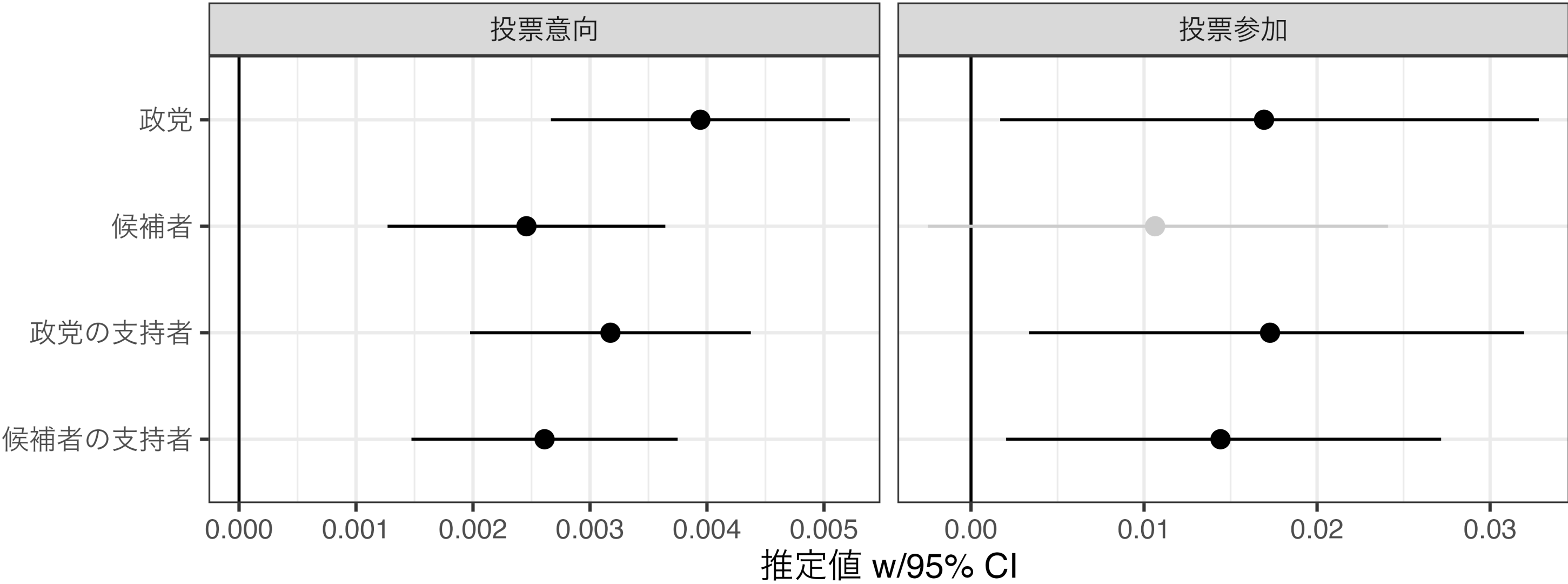
# 分析結果

# 推定結果

- 一つのモデルを除き、本研究の仮説を支持
    - 感情的分極化の拡大 投票参加
- 

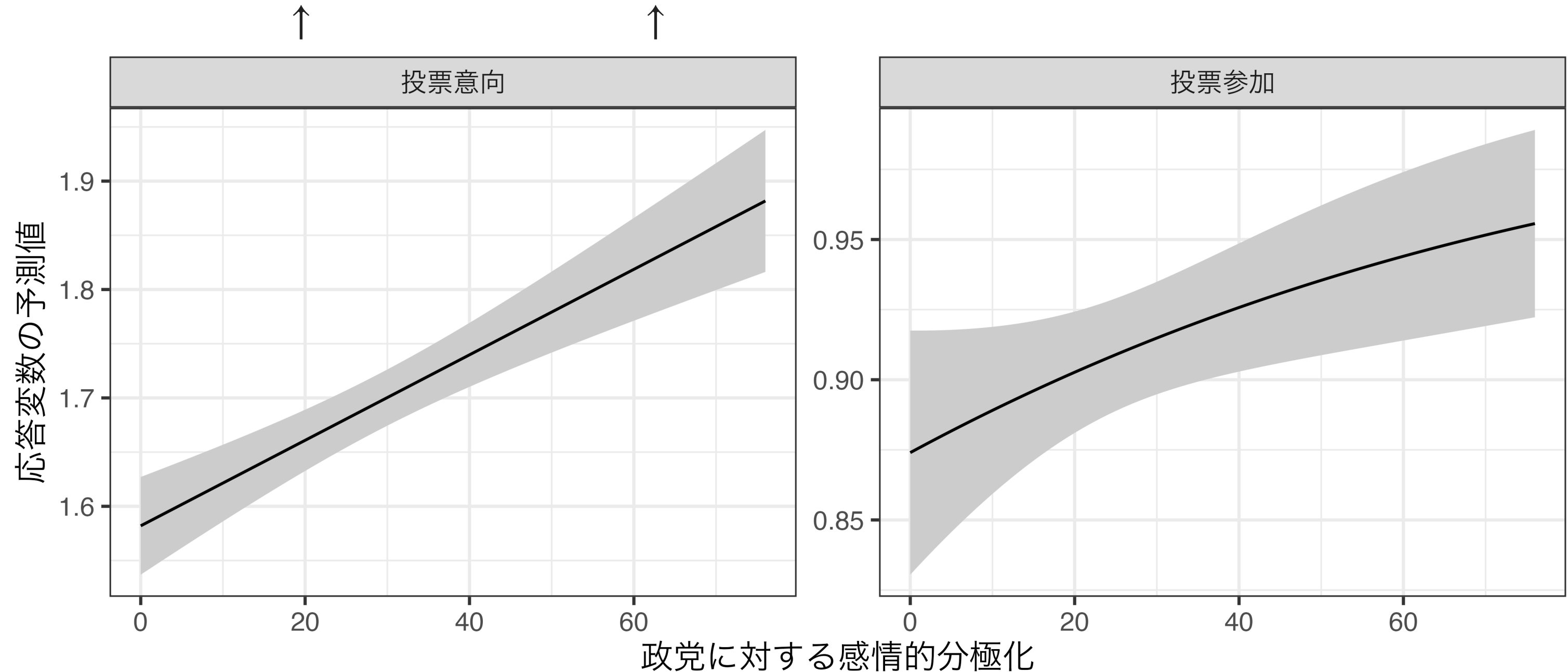
図

表



# 予測値

- 政党に対する感情的分極化が最小値から最大値へ変化した場合...
  - 投票意向: 約0.3 / 投票参加: 約8.2%p





# 効果量

- 投票意向：約0.4～0.5SD分 / 投票参加：約0.2～0.3SD分

|                   | 最小値   | 最大値   | 差分    | 効果量   |
|-------------------|-------|-------|-------|-------|
| 投票意向 (SD = 0.565) |       |       |       |       |
| 政党                | 1.582 | 1.882 | 0.300 | 0.532 |
| 候補者               | 1.610 | 1.851 | 0.241 | 0.427 |
| 政党の支持者            | 1.606 | 1.914 | 0.309 | 0.547 |
| 候補者の支持者           | 1.608 | 1.864 | 0.256 | 0.454 |
| 投票参加 (SD = 0.308) |       |       |       |       |
| 政党                | 0.874 | 0.956 | 0.082 | 0.265 |
| 候補者               | 0.882 | 0.950 | 0.068 | 0.220 |
| 政党の支持者            | 0.871 | 0.965 | 0.094 | 0.306 |
| 候補者の支持者           | 0.869 | 0.949 | 0.080 | 0.261 |

注: 標準偏差は性別・年齢・地域で重み付け

# おわりに

- **結論:** 感情的分極化は投票参加を促す（効果量は約0.25SD分）
  - これまで注目されてきた政党に対する感情的分極化だけでなく、候補者やその支持者への感情的分極化についても同様（[online appendix](#)参照）
  - 「政治に対する感情」よりも「政党の支持者に対する感情」の方が効果量が多い
- **含意**
  - 高い投票率が望ましいのであれば、感情的分極化は民主主義にとって良い現象か
    - 感情的分極化が進んでいる有権者が過剰代表される可能性
    - （政党・候補者が応答的であれば）対立の再生産へ
  - 感情的分極化と民主主義の質の低下（Harteveld and Wagner 2022）  
Brookman et al. (2022)  
⇔
- **課題**
  - 国政選挙（大統領、国会議員）選挙における感情的分極化の役割
  - 選挙区レベルの競合の度合い
    - 無投票当選、地域主義投票行動の存在により、投票率が極めて低い地域など